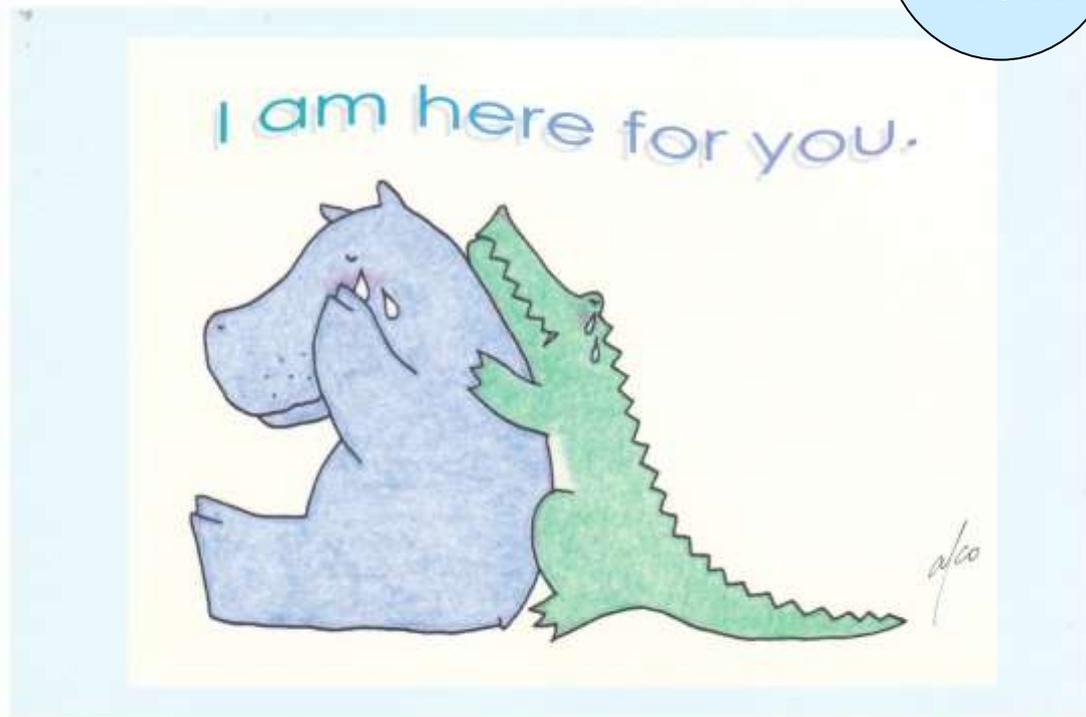


足利風 -ashikaga-fu

2019
8月号
Vol. 63



イラスト：あべ あやこ

足利市民活動センター

開館時間：平日 午前10時～午後7時

〒326-0051

栃木県足利市

大橋町1丁目2006-3

TEL 0284(44)7311

FAX 0284(44)7312

mail info@shimin-act.jp

HP <http://www.shimin-act.jp>

HP QR コード



☆ ご案内 ☆

- *特集！
- *TOPICS
- *私のボランティアことはじめ
- *サークル紹介
- *インフォメーション
- *センターからのご案内

＊ まん丸丸く 丸めよ我が心 ＊

「足尾に木を植えることは、未来に布施するボランティア活動なんですよ」と、立松和平。いのし歳生まれで、宇都宮育ちの立松和平は、日ごろ口癖のように～ぼくにとって“ボランティア”というのは普通の言葉。他人(ひと)のために働こうなんて力んでいたら続かない。“ボランティア”をやるのは自分のためなんだから。。～

田中正造から、道元禅師に向かい、そして。。良寛に辿り着いた人生だった。畏友福島泰樹も立松の早逝に慟哭しつつも、その歩みに共感を示した。

立松和平の小説の中では、私的に一押しは「木喰(もくじき)」(2002年)である。江戸後期、五穀(米・麦・豆・粟。稗)断ちの戒律を守り、地方行脚の先々で仏像を彫り、庶民の苦しみを和らげた修行僧・木喰上人。上人にとりついたノミとシラミの掛け合いを基に、仏道の教えと修行の原理を易しく説いた癒しの傑作。木喰仏は、“民藝”の柳 宗悦に見いだされ世に出た。



甲斐生まれの木喰より1世紀ほど前には、やはり遊行僧として仏像を残した美濃生まれの円空が有名だが、円空の荒削りで野性的な作風とくらべると、木喰の仏像は微笑を浮かべた温和なものが多く残されている。

木喰の“微笑(みしょう)仏”と言われている。また、木喰には心に沁みる和歌も多くある～ “みな人の心も丸くまん丸くど

こもかしこも丸くまん丸” “木喰のけさや衣はやぶれてもまだ本願はやぶれざりけり” ～この世は美しく満ち足りていて、何ひとつ足りないものはない。人の強欲が不足をつくるのだ。“燃やされるつもりで軒下に積まれている流木の中にも仏はいる。すべてが仏なのだから、すべては美しい”と、上人は思う。

～しかし、真の修行を達成した者は、自分自身の極楽往生をする前に、人の間に残って、その救済に全力を尽くす、ということではなからうか。。

僧にして僧にあらず、俗にして俗にあらず～衆生の中に生きるのが木喰の心願であった。。
(M生)

＊ 笠木透のフィールド・フォークを歌う ＊

～私に人生と言えるものがあるなら あなたと過ごした あの夏の日々～ 等々の伝説の名曲を世に出し、“中津川フォーク・ジャンボリー”の仕掛人として高名な笠木 透さんが亡くなって4年が過ぎました。岐阜・恵那山を愛し、自然や平和を愛したシンガー・ソング・ライターのはしりでした。足利とのつながりも深く、“あなたが夜明けをつげる子どもたち”は、一時、手話を入れて、足利じゅうの子どもたちが歌っていました。4月20日(土)足利市民活動センター・みんなの広場での「茶論」は、檜山達夫さんのお話や村山哲也さんのギター演奏を中心に、野の人・笠木 透のフィールド・フォークの世界に参加者一同が大満足でした！

もう一度 “茶論”を大合唱のうちに散会へ。

昼は70年代の笠木 透。夜はBSで90年代の“ZARD”(坂井泉水)の特集で大満足の日でした！

* 足利市と演劇とわたし *

村松 永弓



20年前、劇団を作った。当時私は他の地域に住んでおり、在住している公民館に「演劇の練習をしたいから部屋を貸してください」とお願いをした。「前例がないので、お貸しできません。それに声がでるでしょ、ちょっと困るんですよね」答えはNOだった。足利市は昔からたくさんの劇団があったし、私は足利南高校出身だったので活動の場を足利に移した。なんと活動のしやすいこと！ 当たり前で稽古場を借りることができ、応援までされた。足利には常時5つくらい劇団がある。それぞれ特徴は様々。それは、他の地域では考えられない量である。

私はまだひよっこ劇団の一員だが、足利にこれだけの劇団が活動できるのは訳がある。まず、諸先輩方(私が生まれるうーんと前)が東京に負けない芝居作りをしていた。次に足利に根付いた演劇という文化を絶やさず、足利の子供たちに演劇と触れさせる交流の場を作り続けた。また、文化庁の助成金を申請し、文化体験プログラムや、文化芸術による創造の街プロジェクトなど演劇に触れる機会がとにかく多い。それに足利市民プラザでは市民プラザ演劇祭(もうすぐ30周年)など、足利市全体で演劇を盛り上げてきたのだ！はじめはただ純粋に演劇が好きで、自分の余暇の時間に楽しんでいれば良かったが、こうも毎年動いていると、先輩たちの苦労がよくわかるようになってしまった。そして、こんな気持ちが芽生えてしまった。先輩たちが繋いできたものを私たちの代で潰すわけにはいかない！・・・のではないだろうか・・・(笑) 足利には演劇をすきな市民がたくさんいる市民を巻き込み、もっともっと楽しい足利市が作れるのではないだろうか。東京に行けば面白い作品はたくさんある。でも、ここにも都会には負けない熱き作品がいっぱいあるはずだ！

♡そしてちょっと宣伝♡

足利市民プラザ演劇祭 PPP45° 第8回公演「嘶がちがう！～日日是好日～」

作・演出 村松永弓 10/5 19:00 開演 10/6 14:00 開演

前売り1000円、高校生以下500円(当日200円増) 是非！お待ちしております

* ラジオ体操愛好会 *

わたし達は正しいラジオ体操の普及と会員同士の繋がりを大切にしながら、ストレッチとラジオ体操の仕方を勉強しています。活動場所はさいこうふれあいセンターで月1回・第3水曜日・pm2:00～・年会費1,000円です。新規会員も募集しておりますので興味のある方は、下記まで連絡ください。又、同時に地域に根ざした活動をご一緒にして頂けるボランティアも募っています。

連絡先 岩木 照予 TEL 090-1836-4279

① インフォメーション ①

☆「まちの縁側」～読書サロンへのご招待～

だれにでも心に残る一冊の本があります。童話・小説・詩集・・・等々。
その一冊の本を導きの糸として、案内人を囲んで、参加者のみなさんと一緒に、
ワイワイガヤガヤ・・・と。新しい人との出会いや物語を紡いでみませんか。
どうぞ、お気軽にご参加ください。

★ 8月17日(土) PM1:00～3:00

* 本 : 「みえるとか みえないとか」(ヨシタケシンスケ/伊藤亜紗)

* 案内人: 中島 由貴子 さん

* ひとつこと: “「おなじところをさがしながら、ちがうところをおたがいおもしろがれば
いいんだね」。子どもから大人まで、たくさんの人に読んでほしい一冊
です。とっても素敵な絵本です。多様性や相手を受け入れることの
大切さを教えてくれる、優しさと楽しさいっぱいのお宝のような絵本
です。”

★ 9月20日(金) PM2:00～4:00

* 本 : 「白線と短剣」(和田良信)

* 案内人: 石川 博右 さん

* ひとつこと: “著者の和田良信さんは、元・法玄寺住職、足利工業大学理事長、学
長であり、2014年に、満93歳でお亡くなりになりました。「白線と短
剣」～旧制高校と海軍の青春の記録～は、1975年に出版されたも
ので、白線は旧制高校生の比喻であり、短剣は旧海軍将校の比喻
である。著者の旧制高校(一高)・東大・学徒動員・海軍経理学校・海
軍主計将校任官・・・などの悲喜こもごもの体験談が語られている。和
田先生を忍ぶひとときになればと思います。”

■会場: 足利市民活動センター

■参加費: 無料

■お問い合わせ・事務局: 足利市民活動センター ☎44-7311

* センターからのご案内 *

☆みんなの広場 ～ 8月・9月のご案内 ～

- * 7月29日(月)～8月 8日(木) ひと・まち・山の記録映画展 石川 勝 さん
- * 8月13日(火)～8月29日(木) ひょうたん置き物飾り 展 横島 和良さん
- * 9月 2日(月)～9月12日(木) 土と布・炎と織・器と衣 展 平岩順子&中山キッコ さん
- * 9月17日(火)～9月26日(木) 書の遊行(ゆぎょう) 展 風喜人&悲天 さん

☆相談室&講座のご案内

* 相談室 = 毎月第2・第4水曜 午後2時～4時 ※詳しくは、別紙参照

* 講座 = 毎月1回 午後7時～9時 ※詳しくは、別紙参照

* 編集後記 *

福島県立美術館・東北被災地初の「若冲」展が十万人を超えた。先日亡くなった梅原 猛さん
は、若冲・円空・木喰に早くから注目していて“ほとんどの創造者は奇人である”とも書してい
る。江戸中期の伊藤若冲ほど、奇人・奇才・奇抜が良く似合う画家はいない。かつて、京都の
伏見深草・石峰寺で、若冲プロデュースの五百羅漢を観た時には心から感動した。

(カサブランカ)